平成21年4回玖珠町議会定例会会議録(第4号)

平成21年6月17日(水)

1. 議事日程第4号

平成21年6月17日(水) 午前10時開議

第1 一般質問

1. 本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

出席議員(16名)

1 番	佐藤左俊	2 番	尾方嗣男
3 番	菅原一	4 番	柳井田英徳
5 番	工藤重信	6 番	河野博文
7 番	高田修治	8 番	宿利俊行
9 番	松本義臣	10番	清藤一憲
11番	江藤徳美	12番	秦時雄
13番	日隈久美男	14番	後藤勲
15番	片山博雅	16番	藤本勝美

欠席議員(なし)

職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局長 小川敬文

議事係長 穴井陸明

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町長 後藤威彦

副町長 太田尚人

教育長 本田昌巳

総務課長 松山照夫

財政課長 帆足博充

地域力創造課長 河島広太郎

税務課長	帆 足 一 大	福祉保健課長	日 隈 桂 子
住民課長	横 山 弘 康	建設課長兼 公園整備室長	梶 原 政 純
農林業振興課長兼 農業委員会 事務局長	宿 利 博 実	商工観光振興 室 長	湯 浅 詩 朗
水道課長	村 口 和 好	会計管理者兼 会計課長	麻 生 太 一
人権同和啓発 センター所長	飯 田 豊 実	学校教育課長	穴 本 芳 雄
社会教育課長兼 中央公民館長	大 蔵 順 一	学校教育課参事兼 学校給食センター所長	野 田 教 世
わらべの館館長	中 川 英 則	行政係長	山 本 恵 一 郎

午前10時00分開議

○議長（藤本勝美君） おはようございます。

開会に先立ちまして、傍聴される皆さんにお願いします。

会議中は静粛に願います。

なお、会議中の言論に対して、拍手や可否表明言動は固く禁じられております。

なお、会議の傍聴規則第7条及び第9条の規定により、写真撮影やカセットテープの使用、携帯電話の持込みは禁止されておりますので、ご協力をお願いします。

ただ今の出席議員は16名であります。

会議の定足数に達しております。直ちに本会議を再開し、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

○議長（藤本勝美君） 日程第1、これより一般質問を行います。

最初の質問者は、5番工藤重信君。

○5番（工藤重信君） おはようございます。議席番号5番工藤重信です。ただ今から通告の要旨に従って、一問一答方式にて、4点ほど質問させていただきます。

まず初めに1点目、定額給付金の給付状況および童話の里特得応援権（プレミアム商品券）の販売により、現時点で玖珠町の活性化にどのように効果を上げたか伺います。

最初に、定額給付金は、基準日平成21年2月1日時点において、日本国内で生活していたが、住民基本台帳に記録のない人、また、給付対象者が基準日以降に亡くなられた方や、高齢者の方で役場窓口にて申請手続きができない人、更には、体のご不自由な方などの給付対象者に対して、問題を解決

しながら全ての方へ給付できるようになっているか伺います。

○議長（藤本勝美君） 松山総務課長。

○総務課長（松山照夫君） お答えいたします。

定額給付金の支給状況でございますけども、3月の23日から本町受付を始めております。猶予期間が6ヵ月ということでもありますから、9月の24日までが期限ということになりますが、第1回目の支給が4月の2日に行っておる現状であります。

昨日付けで集計をいたしましたところ、対象世帯数が7,004世帯で、申請済みが6,726世帯、96%の申請であります。そのうち具体的に支給を終えてる世帯が6,544世帯ということで、これは93%ということになります。したがって、申請をしてない世帯が278世帯と、かなり追い込んできております。この議会の始まる前にも、この申請の終えてない世帯に対して、申請を促す文書を出してきたところであります。それからまた、心配をしておりましたDV被害者の対応等、全国的にも問題がありましたけども、本町においては、そういう心配もなく推移をしておりますし、工藤議員がお尋ねになった高齢者、障がい者の世帯のところも、具体的な数字はまだ持ち合わせておりませんが、今のところそういったトラブルもないようであります。いずれにしても278世帯でありますから、引き続き、自治委員さんや民生委員さんを通じて、早急に9月24日までであるとしてますけども、早い時期に支給を終えたいというところでございます。

○議長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5番（工藤重信君） まだ278世帯が残っているようですが、これについては、個人的じゃなくて世帯構成とあるいは住所変更等のいろんな関係もあるし、それから特別施設に入られ、入居とか、その基準日を境にいろんな問題が発生するようなどころがあるから、そこら辺を把握できるような形を早くとっていただきたいというふうに思います。

そして続いて、童話の里特得券のプレミアム商品券における現在までの販売状況等、これはですね、申したのは、町からの助成金4,000万円を有効に使っていただきたいというふうに思うことからです。

続いて、現在、特にですね、どれだけ町内での消費を喚起し、商工業の活性化へと波及しているのか。これが表面化して役立っているものがあるかどうか、もしあったら教えていただきたい。

○議長（藤本勝美君） 湯浅商工観光振興室長。

○商工観光振興室長（湯浅詩朗君） それではお答えをいたします。

童話の里特得応援券とは、日常生活の出費に対する支援を大きな目標といたしまして、また域内での消費を喚起するという意味での商工政策を側面に持ちながら、玖珠町が緊急景気対策として玖珠町商工会に補助金4,000万円を交付しました。この童話の里特得応援券の現在の状況を報告いたします。

まず、6月16日、昨日の時点ですが、販売総額1億8,280万円の予定に対し、販売額1億6,685万円、91%の販売額となっております。発売以来2ヵ月半で、これは町内での消費を喚起できたというふうには考えております。

次に、換金状況、これは使用していただいた商店の方が、商工会でどういうふうな形でこの換金を

しているかということについて、少し傾向が出ておりますので、こちらの方から報告をさせていただきます。

まず、現在の換金状況ですが、販売額に対しまして約50%の換金状況、残り8,000万ちょっとがまだ皆さんお持ちなんです、その内訳といたしましては、大型店が換金率が4割強、地元商店街が6割弱ということで、地元商店街の方が換金率が上回っております。当初は、大型店に集中するのではないかといういろんな予想もありましたが、抽選会等、更なるプレミアム増を打ち出した商工会や地元商店街の努力の成果だというふうに考えております。また、この機会に商工会に新規加入をしていただいた事業所が12事業所ございます。町内での消費拡大や商工振興には大きな成果があったというふうに考えております。販売額がもう残り僅かで、今週いっぱいぐらいの完売を目指しております。ただ、課題といたしましては、販売期限が9月までありますので、今後は少しでも早い買物をしていただき、その効果が早く発揮されるような啓発を、商工会と検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5番（工藤重信君） 給付金を受け取らなかった人の給付金は、最終的にはどのようになるか。要するに国庫に返すのか、地方自治体に残るのかお聞きします。

○議長（藤本勝美君） 松山総務課長。

○総務課長（松山照夫君） これは出来高で国の方に申請しますので、国庫金の方に返ります。そういうことになります。

○議長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5番（工藤重信君） 予想では、少し地元に残るようなところが少し見受けられましたので、ちょっとお伺いしました。

次にですね、2点目、外出支援サービス事業における、バス、タクシー券の支給状況およびその支給対象の生活環境について伺います。

まず初めに、特に対象者の申請率が低いように思われるが、これを上げることはできないのか。また、本町では、外出サービス支援事業申請対象者数約2,500人以上おられると思われませんが、その中で、申請者の数は毎年1,400人弱じゃないだろうかとお聞きしていますが、今年は、現在どれくらい支給されているか、数字的にお願いします。

○議長（藤本勝美君） 日隈福祉保健課長。

○福祉保健課長（日隈桂子君） お答えします。

昨日柳井田議員さんのご質問にもお答えしましたように、議員おっしゃるように、年々増えてはいるんですけど、今のところ、最終的に、20年度では、申請者が55.4%、利用者が68.3%です。ただし、これは、対象者が元気な高齢者とそれから要支援の1・2、要介護の1・2とあって、そんなに介護を多く必要としない方々の外出を促す、それから寝たきり予防だとか、閉じこもり予防だとか、

そういう目的で、健康保持・増進を目的としておりますので、実際にご自分で運転される方とか、それから家族の方で運転をしていただける方がいらっしゃる方は、その券が必要がない場合が多いんですね。ですから、なかなか対象者で、対象者イコール受診率が低いからといって、必ずしも申請者が少ないわけではないこともあります。ただし、おっしゃるように、もう少しですね、年々上がってはきてるんですけど、もう少し申請者また利用率を上げるために、係で前半の分はどうしても地域に出るように、出るちょうど時期的なタイミングがありまして、4～5月、6月はとても業務的に業務量をこなすのが大変なものですから、今年の10月から、後半で少し地域に出ささせていただいて、柳井田議員さんも何回もご要望がありましたが、少しでも周知させてもらって、それから利用率を上げていただこうかと思っております。

今年の分の実績なんですけど、直近で15日現在、申請率は49.6%ですから、かなり上がってきております。49.6%ですね。去年が50%ちょっとでしたから、かなり高率で最初の段階で申請は上がっているようです。先ほど申しあげましたように、10月の後半でももう少し周知すれば、かなりの方が使っていたのではないかと考えております。

以上です。

○議長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5番（工藤重信君） この外出支援サービス事業におけることについて、昨日柳井田議員さんからも質問がありましたが、一応確認をしたいと思えます。

バス、タクシー券は1人につき1回400円も、これあってよいが、使用する人の中にはもっと多い金額の券も必要とする人もいるのではとのことで、その点は今後においてどうにかならないか。これをお伺いします。

○議長（藤本勝美君） 日隈福祉保健課長。

○福祉保健課長（日隈桂子君） この件に関しましては、当初から何度かご説明したかと思いますが、先ほど申しあげましたように、目的に、外出を促す、それからお外に出るということですね。何らかの形で皆さんと会話を弾ませたりとか交流をすることが最大の目的になっておりますので、8,000円を1回にして差し上げたり、数回にして差し上げるということは、外出の回数を1回で終わらせたり2回で終わらすことになってしまいますので、本来の目的は、回数を20回ということは、20枚ということは、往復で10回外出ができるということですね。ですから、うまく利用していただいて、そういう交流の機会を増やしていただこうかと思っています。ですから、その金額に関しては、変更を今のところ考えてはおりません。

ただし、高齢者の方も工夫されてまして、遠くに行く場合に、催し物とかの場合は、3人でタクシーを呼んで1枚ずつ出すんですね。そうすると1,200円になります。帰りも1枚ずつ出して帰るという工夫を、ここ4年の間には、イベントの会場で、入口でタクシーを使われてる方、かなり相乗りをされてうまく利用されてるケースを見かけます。そのような利用の方法でしていただけるとありがたいと思えます。

以上です。

○議 長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5 番（工藤重信君） この件についてはですね、都合によって、あるいは家庭環境、やっぱり一人で暮らされて、少ななかな動きがよくとれないとかいうようなことも考え、特に遠いところ、地方におられる方は、考えて支給できないか。そしてこれに対しては、ちょうど担当者の方は忙しい時期であるとは思いますが。それで、なかなか出かけるのも大変だから、一応連絡とかをとったり、様子を伺うような形のものでできればしていただきたいと思えます。いかがでしょうか。

○議 長（藤本勝美君） 日隈福祉保健課長。

○福祉保健課長（日隈桂子君） その件も、今年もチラシの方に書かせていただいているんですが、高齢者の家族世帯、またお一人暮らしの方でどうしてもご都合がつかないとか、その理由がある方に関しては、お問い合わせ下さいということで一応町報の方にも書かせていただいています。問い合わせがありました方には、申請書を送らせていただくなどの、それから近隣の方たちに協力をいただくとか、申請は勿論しなきゃいけませんので、そういう工夫は一応お知らせの中でしてるところなんですけど、今先ほど申し上げましたように後半で、もう直接うちの方が出向く形を取り込みましたので、そちらの方で対処したいと思います。よろしくお願いします。

○議 長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5 番（工藤重信君） 今年は、最初としてはいい成果を上げているように思います。秋にまたあると思いますので、期待も持てるかなというふうに思います。

最後に、支給対象者が窓口に行かずに、支給を受けていない方々に対しての健康を願うことから、町はバス、タクシー券支給に代わる還元方法、毎年というわけにはいきませんが、何年かに1回とかいうような形で、どんな形で還元方法は考えていないのかちょっとお伺いします。

○議 長（藤本勝美君） 日隈福祉保健課長。

○福祉保健課長（日隈桂子君） 質問が少し分りかねるんですけど、元気な方ということですかね。それともしない、申請しない方に対する…。

○議 長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5 番（工藤重信君） いずれにしてもですね、窓口に来ない人は、元気な方もいるし、それから近所で結構付き合ひも付き合っている方もいるし、そういう人は来ないというか、利用されないというかですね、そういう人が100%そういう人はいないというような形ではないから、統計的に見てから分かると思うんですが、何年かに1回ぐらいはそういう還元とか、あるいは健康を維持できるような形の何かのもし支援できればというふうに思うことです。

○議 長（藤本勝美君） 日隈福祉保健課長。

○福祉保健課長（日隈桂子君） 直接にこういうバス、タクシー券のように個別に金券を配布するとかそういうことは考えておりませんが、間接的に、お元気な方、また交流を広くお持ちの方は、今、地域支援事業として、社会福祉協議会と一緒に各地域で、生き生きサロンのような形で何らかの形でそ

ういう方たちに講演をしたり、それから講習を開いたり、運動の健康増進に対する機会の場を近くに、身近な近くで設けるようにということの方を推進しております。そちらの方に健康増進の方の費用を使わせていただいて、そちらを少しずつ増額させていただこうかと思っています。

以上です。

○議長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5番（工藤重信君） 2点目はこれで終わります、3点目の防災無線における従事者の構成と活用方法について伺います。

まず初めに、防災無線に関しては、平成19年6月議会で一般質問をされて、そのときは「防災無線がほんとに役立つよう考えていくよう、委員会会議等を設置したらどうか。」との質問に、担当課長の答弁として「貴重なご提案でございます。今後検討させていただきたいと思っております。」との答弁であり、その後どのように変わったのか伺います。現在まで変わったところが見受けられないからお尋ねします。

○議長（藤本勝美君） 松山総務課長。

○総務課長（松山照夫君） 議員ご指摘のとおり、19年6月以降どのように変わってきたかということでもありますけども、制度の運用そのものは変わってないだろうと思いますが、今、現在まだ結論出ておりませんが、この防災無線についての日々の活用、これについては今検討を加えさせておりますので、もう暫く時間をいただきたいというふうに思っております。

○議長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5番（工藤重信君） 次にですね、防災無線従事者、これは通信担当者は決まっているのか。また、放送が現在極端に少ないこともあるようです。また、放送してほしいものも、放送されない場合も見受けられます。同じ行事についての放送、何日も放送される場合は、その日に合った放送分のテープに修正はできないものか伺います。この中で一つ引っかかってくるのは、通信担当者の問題ですが、この通信担当者は、無線従事者の資格を有する者と、規定の6条に、玖珠町防災行政無線管理運用に関する規定の中のこの6条にそのことが謳ってあります。その中では、まず3条は、無線局の業務を処理するために、無線局に無線管理者、通信取扱者及び通信担当を置くとなっています。そして4条は、無線管理者は町長をもって充てると。そして5条で、通信取扱者は防災担当課長とする。そして最後に6条が、通信担当者は、無線局に勤務する職員で、法第40条に規定する無線従事者の資格を有する者のうちから無線管理者が指名するということではありますが、そのとおりに事を運んでいるかお伺いします。

○議長（藤本勝美君） 松山総務課長。

○総務課長（松山照夫君） お答えが、順番がちょっと変わりますけども、ご了承願います。

まず1つ、無線の従事者の構成でありますけども、確か、我が町のこの条例においては、無線管理者は町長、そして通信取扱責任者は防災担当課長ということで、現在総務課長となっております、そして問題の通信担当者、これは第3級陸上特殊無線技師という資格を、消防担当の係長、それから

2名職員がおりますが、ほかにもおりますが1人が持っております。2名持っておりますし、1名の異動した新しい職員は、今年またその資格を取り行くということで、そういう法的な対応はこれで賄っております。なお、具体的に防災無線を放送するアナウンサー、これはいわゆる通信担当ということでもありますから、通信担当者の指示によって行うということで、現在は、放送する各課の担当者が放送してるという状況であります。

現在いろいろ担当、内容の問題とか聞き苦しいところとか、内容の問題が今出ておりますけども、そういうことも含めて、今、行政係あるいは消防の方、総務課の方で現在検討を加えております。

○議長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5番（工藤重信君） 放送の仕方が少し言われましたが、放送の仕方の中では、短時間で放送が終わるといふようなところもあり、そういったところでは、例えばアナウンサー的、報道関係のプロの意識じゃないけども、アナウンサー的に1人での放送はできないのか、これを伺いたい。特に、場合によっては、きちっとした声が伝わらない場合が少し私は感じる場所があります。そして、またもう1つは、町主催行事でなければ放送できないのか。これについては、放送規定の中では玖珠町防災行政無線設置及び管理に関する規則の中で、この3条に（1）から（5）まであるんですが、この中の枠になかなかはめることは難しいと思うこともありますが、ある程度の拡大解釈ができれば、例えば玖珠町の場合は、ケーブルテレビがない関係で非常に防災無線を頼っているところが見受けられます。文化的な行事内容から、ボランティア活動で子どもから大人2、300人以上が集まったイベント、今度実際行われますミュージックフェスティバルとかいうのは、相当な骨折りと、それによって、かなりのメルサンホールに入りますけれども、そういったものの申請があったら、もうすぐに受け付けていただいて放送できるような形がとれないかというふうに思います。

町主催の物でないものでも結構文化的なものが、要素が備わったものがあるから、できれば町民に知らせてほしい。この点について伺います。

○議長（藤本勝美君） 松山総務課長。

○総務課長（松山照夫君） お答えいたします。

このアナウンサーの専門性について、今ご質問がありましたけども、実は、かつては電話交換手という者がおりました、正職員から臨時職員という形で切り替えてまいりましたし、その間は、そういう電話交換手の職員がこれを兼ねて放送をやっておりました。ところが、これはいつでしたか、行政改革が始まって、平成の16年、17年から、行政改革ということで電話交換手を廃止しました。その分、各課にダイヤルインの電話を置いて、各課直通の電話を現在今配置しているところでもあります。そういうひとつ行政のスリム化といいますか、行政改革のことで専門のアナウンサーがいないということになっております。そのことで、いろいろ声の質の問題とかいろいろご指摘があるようでもありますから、その今の検討課題の一つには、そういう一つは職員の研修、アナウンス的な研修、こうしたものをできないかどうかということもですね、ひとつ視野に入れて今検討を加えているところであります。

それから、いつでも放送ができる、流してほしいというご質問でございますけども、確かに、この電波法を見てみますと、これは確かに防災無線ということですから、防災行政これに特化をしておりますけども、それ以外、それだけに限りますと、限られた機会では無線は使えませんから、日々のテストこういうのもならないんじゃないかということで、一般的に町の広報紙に掲載可能なものであれば、これは町長の判断でやってもいいんじゃないかといふような電波法の解釈がありますんで、現在、そのじゃあ広報紙に掲載可能なことは何かという基準は、これは各課の担当職員の判断ですね。これはひとつ町民の方に知らせた方が、これはいいもんだと思うならば、即放送ができる態勢はとっております。アナウンサーの特化の問題なかなか難しい問題がありますけども、これも今検討を加えております。

以上でございます。

○議 長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5 番（工藤重信君） いずれにせよ、町民に伝わり、そして玖珠町には今日は何かあるぞというような形の放送は、大きなイベント等については、是非とも伝えていただきたいとお願いします。

3点目はこれで終わり、4点目として、後藤町長は町長就任以来、町のトップとしての重責の中、どのような姿勢で町政に取り組んでこられたのか。また、町長の職責としてのこれまでの発言や言動について伺います。

初めに、町長は、選挙公約で玖珠インター前ふれあい広場及び玖珠町総合運動公園の建設反対を訴えましたが、その後、町長に就任して昨年9月議会（特別委員会を含む）で、玖珠インター前ふれあい広場、次に総合運動公園建設計画について方向を転換し、運動公園については、土地取得残り分の予算化も先ほどされました。

また、昨年12月議会では、副町長そして教育委員会委員も選任され、今年の3月議会では、問題もなく、本町も徐々にではあるが良い方向にあると思っておりました。しかし、その後、民放の放送番組「サンデープロジェクト」の中で、本町の総合運動公園について全国放送がありました。町長もサンデープロジェクトをご覧になったと思いますが、番組の中で、この我が町の評価はどんなものがあるか、そして今後に及ぶものはあるのではないかというふうに思い、そして町の最高責任者である町長の発言として、町長はどのように捉えているのか伺います。これについては、私も何度も見て分析をしました。そんないろんな要素を含めての町長の捉え方をお聞きします。

○議 長（藤本勝美君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） 工藤議員の質問に回答をしたいと思います。答えさせていただきます。

大変質問が難しい質問でございます。重責を担ってということのようでもあります。そしてこれからの町政をどういうふうに考えているのか、どういう姿勢で臨むのかという質問でもあると思っております。少なくとも、町長選に出馬したときから1万8,000人の福祉、すなわち幸福というものを、幸せを願って、その生命と財産を守る姿勢が正しい姿勢であろうと私は信じております。そしてまた、その手法についても、町民の皆さんの目線に立って意見に耳を傾けるというのが私の信条であります。

あえて申せば、そういう姿勢で町政としての責務を全うしているつもりでもあります。今後も、私の政治姿勢から誤解の招くことのないように、正しい姿勢で、且つ信念をもって1万8,000人の町民の福祉の向上のために邁進してまいりたいと決意をしております。

工藤議員におかれましては、どうか私の意のあるところを汲み取っていただいて、町政の発展にご協力願いたいと思います。答弁いたします。

○議 長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5 番（工藤重信君） このサンデープロジェクトの番組については、この内容については、昨日も清藤議員さんが質問をされ、そして今度は、更には、私の後に佐藤議員さんも質問があると思っております。そしてこれは、それだけに大きな問題ではないかというふうに思っております。

まず私の分析を少しさせていただきます。この番組の中で、町長は、当初、運動公園は町の活性化につながるのと発言もありましたが、町長は今、どのように考えておられるのか伺います。

○議 長（藤本勝美君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） お答えいたします。

この運動公園については、町民の皆さん方がどういう方向でということの中で私は考えてまいりたい。また、まいったつもりであります。だから今の段階では、勿論やる方向でということでお話をしておるわけでありまして。理解を、各地に出かけて、運動公園の必要性も含めながら話をさせていただいているところであります。

○議 長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5 番（工藤重信君） 答の中にはですね、要するに町の活性化につながるとか、そういうことのちょっと小さな分野ですが、大切な分野と思います。それから本庁の職員について、職員は町民の声を声として聞いていないとの発言があり、この発言についても問題があるように思うが、町長は職員に対してどのように対応されたのか伺います。

○議 長（藤本勝美君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） お答えいたします。

十分町職員の皆さん方も私の意向を踏んで、その方向で動いていただいていると思っております。以上です。

○議 長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5 番（工藤重信君） 今回の運動公園問題の報道では、町民に誤解されるような内容もありました。例えば、議会がいかにも圧力をかけた進め方をしているように報道されている。議会としては、法的分野を一つずつ押して確認しながら進めたものと私は思っております。それから報道陣の捉え方として、運動公園は隣の九重町にあり、玖珠町はそれと同じ内容のものを造ろうとしているとの放送がありました。その内容をよく見ると、勿論皆さんもご承知のとおり、内容的には全く違う施設であるというふうに思っております。また、今回の放映された内容を見ると、道の駅や運動公園について、町長は何も悪いことはしてない、そのような印象すら映っておりますが、しかし、玖珠町の運動公園は

全国に放映されたことから、町民にどのように見られたのか。町民に対して、町長はその内容を正確に正しく説明と今後の方針についても打ち出して、町民から理解が得られる説明責任があるのではと思います、そして多くの町民、我々議会、職員にいたるまで、大変遺憾に思うのだと思います、そして町長はその点どのように思われているか伺います。

○議 長（藤本勝美君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） もう何度もこの問題は、特別委員会であれ、それからいろんな場所で話をしてきたと思っております。特に議会については、議場の中で何度もこの話はさせていただいております。私は全てのいろいろなコミュニティに出かけて行って、どういう状況の中でこの運動公園をやる方がいいんだということを説明もして回っております。確かに、公約違反だという部分については反省をしなければいけませんが、これは今の段階では、今のこういう状況の中で、やる方向で皆さん方にお話をしているということをご理解を賜りたいと思います。また、説明もしているところであります。

以上です。

○議 長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5 番（工藤重信君） その他における町長の発言として少し申し上げたい。

玖珠インター前ふれあい広場、道の駅童話の里くすが5月29日オープン、その日の昼において、町民から、町長は道の駅を造ることに反対したが、議会が圧力をかけてするようになったとのことを聞きました。直接。そこで、私は、当時の状況を正しく理解されるような説明で納得していただきました。そして更には、道の駅の出荷について、町長は、各地区に出向いて、野菜をできるだけたくさん出してほしいというような呼び掛けをしておられるようですが、大変いいことだと思いますが、しかしながら、出荷できるよう手続きにこの本庁に来ると、それは道の駅に行ってくださいと。それで道の駅に行ったら、道の駅では受付をしておりますというような形を町民の方が言われて、これについても、町長は支配人と意思統一してない、そんな声が上がっております。そしてこの問題については、出荷関係については、昨日、日隈議員さんの質問の中で、生産者の拡大をするような発言もありましたが、再度確認しますが、いつ頃生産者にお伝えして、生産量を増やせるような形にお願いするのか伺います。

これについてはですね、一番町民が感じたのは、道の駅側としての対応が、申請者に状況を説明して、住所、氏名等を聞いて、後日連絡が取れるような対応はできなかったのかというような形まで、町民の方から声として受けております。この問題についてお伺いします。

○議 長（藤本勝美君） 河島地域力創造課長。

○地域力創造課長（河島広太郎君） ただ今、工藤議員さんのご質問でございます。

出荷したい農家の登録の件だろうというふうに思います。この件につきましては、町とインター前のふれあい広場活性化協議会と、当初の4月1日に指定管理の契約をいたしております。その中に、1つ協定書というのが入っております、この受付につきましては、一定期間を町と期間を設けて、

その期間内に募集をするという形をとっております。ですから、いつでも申し込みがOKという形ではなく、協議会と町で打ち合わせをいたしまして、一定期間の申し込みをまた受けるという形を取っております。

現在のところ、出荷協議会から町の方に、書類で、生産物が若干やっぱり少ないという部分もありまして、更に登録農家を拡大したいという申し出を受けております。それを協議を受けまして、更に募集をする手続きを今とってるところであります。

以上です。

○議 長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5 番（工藤重信君） 現状を見ますと、野菜がまだ不足しているように思います。できるだけそのような形にならないように、もう8時過ぎから、地元じゃなくて他のところから結構お客さんが待っているような状態を見かけます。それに期待に応えるような形をつくって、魅力ある道の駅にしたいというふうに願うところです。

次に、町長の施政方針で打ち出した計画や、町長発言として言われて実行に移す場合は、執行部及び担当職員までに話通っていない場合がときどき見られます。町長はどのように思われるか伺います。

○議 長（藤本勝美君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） お答えいたします。

伝達のやり方というのは、課長会がございまして、当然、月に1回、1日を大体中心にしてやっておるわけでありまして。その時に、これこれこういうことを考えているがとか、こういう方向でいきたいがということで、課長会の中でお話はさせていただいております。いろんな詳しい内容的にちょっと詰めた話になれば、行革委員会というのがあるわけですから、その中で話をする。公約の部分で、考え方は、当然私の考え方と職員皆さん方の考え方がちょっと違う場合は、それは勿論擦り合わせの中で、この程度ならという中で話をやっておるわけでありまして。公約については、やっぱり粛々とやっていきたい、そういう思いは持っております。

以上です。

○議 長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5 番（工藤重信君） 公約というよりも、このひとつの実行に移す場合の段取りそのものが、非常に問われる。例えば、町長は予算も持っているが、予算に伴う工事関係は、特に担当課長、担当職員に事前に話をしていないと、工事をお願いする町民や担当職員、更には私たちまでが困惑し、仕事がやりにくい面が多々見られますので、そういったことを申し上げました。

最後に、高校再編問題について、先日の玖珠九重両町合同会議での町長発言の中で、前倒しと発言をされましたが、その前倒しがよく我々には分からなく、その真意と今後の取り組みについてどのように思われるかお伺いします。

○議 長（藤本勝美君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） これは、発言の提案の中でないわけですが、これは少しでも早く、いわば学校再編についてはやらないと、森高と玖珠農の関係は最終的には2010年近くなるのではないかと、あ、20年近くですね、なるのではないかと考えております。今の状況では大変、詳しいことは教育長の方からまた話をさせていただきたいと思いますが、要は、少しでも早く、玖珠の状況の子どもたちにやっぱり本当にいい勉強のできる体制がとりたいなという思いでそういう発言をしたわけでありまして、以上です。

○議 長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5 番（工藤重信君） ただ今答弁いただいた、その分かりやすいような答弁でしないと、なかなか前倒して一体を何を示しているのかというような形にとられると私は考えております。

最後にですね、全般的なこととして、これからのこれらのことをいろいろ考えてみますと、町民は町長の発言に対して、場所と立場を考え、重みのある発言を願っているようですが、町長はこういうことについて気をつけてこれをどのようにしていくかというふうな方針等がありましたらお願いします。

○議 長（藤本勝美君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） 貴重なご意見であります。十分そういう点を考慮しながらこれからはやっていきたい、そういう思いであります。以上です。

○議 長（藤本勝美君） 5番工藤重信君。

○5 番（工藤重信君） これまで質問された中では、今後の問題として非常に大きなことであり、方向性が見えるような形をできれば示していただきたいというふうに思います。

以上で私の質問を終わります。

○議 長（藤本勝美君） 5番工藤重信議員の質問を終わります。

次の質問者は、1番佐藤左俊君。

○1 番（佐藤左俊君） 1番佐藤左俊であります。

もう最後の一般質問ということで、執行部の皆さんについては、やっと終わったかというふうにもあると思いますけども、一番やかましいのが最後に立ちまして大変困るんじゃないかというふうに思っております。その点は私も率直にものを言わせていただきますし、失礼な言葉等が追々出てくるかと思っておりますが、ひとつご了承いただきたいと思っております。

町長に就任されまして9ヶ月が過ぎようとしています。おそらく町長におかれましては、予想以上の多忙のことと推察をいたします。今回、町長が今後町政を進めていく上で、たくさんありますけど、今回は3点につきまして、町長にご質問をさせていただきます。

まず、町長と我々議員との職責の違いにつきまして、当然町長はお分かりかと思いますが、時間の制約もありますので割愛していきたくは思いますが、ただ、私どもは、町長もご存じのように、日本国憲法の第93条に基づきまして、議事機関として議会を置くことができるという立場で仕事をしているというふうに思っています。町長も議員も住民投票の選挙により選出をされますが、責はまるで異なります。また、地方自治を遂行するにあたりまして、憲法を基軸として、地方自治法、地方財政法、

地方税法、地方交付税法、地方公務員法、地方教育行政組織及び運営に関する法律、公職選挙法で形付けられているというふうに思います。更に、町長も議会の議員も、直接住民の公選によってよることとされておりまして、しかも町長には執行権、議会には議決権があります。双方にその権限を均衡させ、それぞれの独断専行を抑制して、適正な効率的な行政の運営の確保を目指す、いわゆる大統領制をしいています。

例えば、予算におきましては、その編成権と執行権は町長に専属しています。議会の議決がなければ執行はできない建て前となっております。議決にあたっては、修正も否決もできることになっています。町長も議会も、それぞれの権限に基づいて役割を果すものでありますが、共に住民福祉向上という共通の大目的があり、その結果については、双方ともに直接住民を責任を負う制度となっていると思います。端的に申しますと、町長は、議会の議決がとれば町をどのように変えることもできますし、独断専行はできないこととなっております。

そこで、第1項目めの、公共施設（童話の里「道の駅」）の管理委託について、質問させていただきます。大変大雑把な内容になっておりますが、一応既に通告をしておりますから、かなりその中では勉強もされていると思いますので、大変申し訳ありませんが、細かい点といいますか、項目につきまして逐次質問させていただきます。

法律が改正されまして、公共施設の管理を民間ができるようになりました。以前は、公共的団体しか公共施設はできませんでした。しかし、法律が変わりまして、今回、民間でもできるということになりました。しかし、国や県の公共施設は、最近の厳しい財政事情から、民間に業務を移し、本来行政でやるべきものまでが、極論しますと民間委託になりつつあります。私はここで町長に申し上げたいことは、道の駅というものは、当初、町の計画であった公共的団体組織の会社を早期に立ち上げて、協議会運営ではなく、やはり今いろんな様々な問題が出ております。後でちょこっと指摘をさせていただきますが、非常に意思疎通がうまくできてないというふうに率直に思います。私も、自宅が近いこともありまして、毎日顔を出させて行っております。予想していた以上にお客さんがたくさん寄っています。しかし、残念ながら、先ほどから工藤議員も他の議員さんも言われておりましたが、もうほとんど商品がなくなる。その中でも生鮮野菜ですね、これが非常に即なくなります。私も実はブルーベリーを少し作らせていただいております、農協の直販と道の駅、それから福岡の青果市場についてちょっと顔を出させていただいておりますが、メンバーは大体同じです。もうほとんど公営化されております。

そういう中で、先ほどからいろんなお話がありますが、後でまた質問させていただきますが、私は再三にわたってこの議会も申し上げておりました。玖珠の特産品が一体どこにどうなっているのか。昨日からの答弁を聞いておりますと、特に、特産品コーナーというのが、あの道の駅で独特な玖珠の物は一体何なのかということ率直に私は思います。玖珠米は、農協の方がしっかりと展示室があってやっております。しかし、あとはありません。玖珠牛なんちゅうのはほとんどありません。これは、もう見ていただければ分かるんですが、犬飼畜産公社の旗と豊後牛の旗が立って、そこで肉が売られ

ております。これは一体どういうことなのかということ、私はもうどう考えても、少なくとも準備が間に合わない、間に合わんなら、そういうことをしては悪いんですが、他の市町村でできた牛をなぞ玖珠の道の駅で売らなきゃならないのか。玖珠でできた牛の、玖珠で売ることによって初めて道の駅の効果があるというふうには私は思っております。この点については、後でご説明をいただきたいと思いますが、甚だですね、私は何回もこの問題については言ってきたつもりです。玖珠は、米と牛肉と椎茸が私は玖珠の産品と思っています。この特徴ある道の駅にしない限り、見てください、あの加工品、いろんな業者のいろんなものがたくさんあります。これは一体どういうことですか。これは玖珠の道の駅の魅力からすると、私は、私だけかも知れませんが、大変どうもその辺のところははっきりいたしません。この点について、犬飼の公社の牛を売っている、これは率直に、協議会長の町長に明確にお答えいただきたいんですが、なかなかその辺のところは、町長はもう、直接町長とはお話をしたんですけど、なかなか分かりにくいと思いますが、副町長なり、前担当課長なり、私はその辺のところは、このオープン前から私はやってきたつもりでありますので、まずそこ辺の見解をお伺いしたい。

○議長（藤本勝美君） 河島地域力創造課長。

○地域力創造課長（河島広太郎君） その件、肉の販売の件ですが、私の方からお答えをさせていただきます。

現在、道の駅に肉を供給しているのは、カウベルランド玖珠であります。カウベルランド玖珠は、大分県経済連を通して肉を仕入れておまして、カットして道の駅の方に出していただいているという状況であります。確かに佐藤議員がご指摘のように、全部玖珠産の牛かということ、なかなかこれ難しい面がございます。この難しさについては、また、佐藤議員もご存じのことと思いますが、やっぱり肥育団体といいますか、きちっとした形で全部を消費しきれるような状況にもっていかないと、なかなか玖珠の牛だけを仕入れるというのは、今の状況では難しいというふうに聞いております。それで、現状で言いますと、大分県産がほとんどになろうかというふうに思いますが、そうした中に、玖珠の牛も若干は入ってくるというような状況ではないかというふうに考えております。

肉につきましては、佐藤議員がご指摘のように、豊後玖珠牛というふうにきちっと限定ができたものではございませんので、豊後牛という形をとらせていただいております。

以上です。

○議長（藤本勝美君） 1番佐藤左俊君。

○1番（佐藤左俊君） 玖珠町の目的にしておったのはですね、皆さんご存じかと思うんですが、町長もご存じかと思えます、飛驒牛ですね、岐阜県飛驒高山、あそこは全国一に子牛も高いし、全ての小さな食堂から大きなホテルまで、全て飛驒牛を使っております。頭数は日田と玖珠と同じぐらいの頭数です、飼育頭数がですよ。なぜそういうことになってるか、地域内一貫体制をとってるんですよ。玖珠はそれを目指してここずっとやってきたんじゃないですか。玖珠の牛を世に出そうということで、今まで、町は、県もすべて助成金も出し、いろんな、今でもそうですが、玖珠の牛を世に出し

ていこう、玖珠の牛が松坂牛になったり、佐賀牛になったり、神戸牛になったりしたら駄目だから、玖珠牛として出しましょうというのが玖珠町の方針だったというふうに思いますよ。

ですから、今カウベルランドで仕入れていますと言いますが、本来カウベルランドは、ウエストファームの肉を使わなきゃいけないんですよ。そこは、町首脳陣の方はわかってなきゃ困るんですよ。いいですか、玖珠で生産されて、玖珠が肥育された牛が玖珠牛になるんです。だから、現にそういう、今回も後でまた質問をしますが、大型肥育農家が玖珠に来ておる。非常に玖珠から育てる牛がたくさん今から出ますよ。それでも豊後牛ですか。ここ辺のとは、心から玖珠の道の駅で使うとするならば、その辺のところはしっかりと一からやり変えてください。そうじゃないと、町の税金は無駄遣いになりますよ。そういう点をひとつ。

○議長（藤本勝美君） 河島地域力創造課長。

○地域力創造課長（河島広太郎君） 佐藤議員のご意見ですが、本当にご尤もな意見でございます。私どもも、その件については本当に一生懸命議論をいたしております。いずれ、ほんとに佐藤議員がおっしゃるように、ウエストファームの肉を使い、ファゼンダ・グランデの肉を使う、そういう形が一番ほんとに理想的な形というふうに考えておりますので、是非ご協力をお願いしたい。

いずれにしましても、町内で肥育された肉を使うとなりますと、かなりの消費がないと、なかなか1頭分捌けていけないというようなこともございまして、なかなか難しいんでございますが、いずれにしましても、やっぱり基本は、やっぱり玖珠で育った肥育牛を玖珠で販売していくと。これはもうほんとに基本中の基本だろうと思いますので、是非ご協力をお願いしたいと思います。

○議長（藤本勝美君） 1番佐藤左俊君。

○1番（佐藤左俊君） それではですね、道の駅に出してる看板を外させてください。早速。豊後牛なんちゅうの、ああいうのをあの道の駅には飾らんでください。少なくともね、ああいうことを道の駅でやるちゅうことは、あとあと影響しますよ。ですから、その辺の話は十分関係者と話をしてください。豊後牛という看板をあげた時点で、今度、あとから玖珠牛になったんでは何のことか分かりませんよ。その辺のとは、よっぽどようですね、詰めてください。お願いしときます。

○議長（藤本勝美君） 要望でいいかね。

○1番（佐藤左俊君） はい。そういうことで、そこはいいです。

それから、この機会に言わせていただきますが、先ほどからも私は言いました。やはり地域内の一貫体制ができ上がって初めて、いいんですよ。ここは是非町長、副町長、わかっちゃってください。お願いします。

それから、この道の駅の目的の中に、町の活性化ということで造られたというふうに思っております。地元の農家の皆さん、朝早くから大変努力されて、農協の方の出荷場、それからあそこの道の駅に、先ほど言いましたが、私もちょっと顔を出しておりますが、ほとんど持って来ている方は高齢者が多いんですよ。圧倒的に。とても規模拡大とかとてもそういうことは、なかなかこっちが思っているような状態ではないんじゃないかと。ほんとは行って見たら分かるんですが、先ほどから、ひとつ

また増やしたい、生鮮食品の農家増やしたい。とてもじゃないですけどね、今の高齢者の皆さん、やっぱりよっぽどかき集めて、そしてきめ細かな指導がない限り、役所的な発想では恐らく集まらないであろうと、品物も。だから町と、前、町の職員はそれぞれ農家に出向きよったはずですが。今回、道の駅に移った時点では、おそらく農家回りといえますか、やってないと思います。だからやっぱり会員さんの家にやっぱりあくせく回って、品物をやっぱり集めてもらうぐらいの気持ちがないとですね、ただ7時45分まであそこの道の駅まで持って来なさいなんて、そういうふうな役所的なやり方じゃ品物は集まらないと思いますし、もっとですね、心のこもった担当者を今度つくるなり、もう誰がどういう品物を出して、どういう売り方をしちよるのかをしっかりと掴めてないと、ただ、人が少なえ、品物が集まらないから困ります、困りますじゃないと思いますよね。やっぱりそこ辺の体制がない限り、なんぼ人を入れても私は駄目だと思いますから、この点については是非ですね、直接今日は支配人おりませんから言えませんが、特に担当課長については、十分その辺のところは指導をお願いしたいと思います。

それからですね、もう1点ほど質問させていただきます。この、今、道の駅が全て運営協議会で運営をされているようですが、そのトップが町長であります。非常にこれは形はいいわけですが、非常に動きが悪い。どうしても行政のトップが町長、一番責任者ちゅうのはトップは悪いわけで、この辺のところは後でまた質問をさせていただきますが、実はこういう話を聞きました。聞きましたじゃない、今現在もそうですが、皆さん行かれたと思います、テナントのスペースが空いています。ずらーっと空いています。テナント予定地、これが話を聞きますと、一応町としては、広報に出してテナントを募集したようですが、募集がなかなかできなくて、最終的に、業者はいませんが、誰かがやりたいというお話が出たようですが、どうしてもこちらの道の駅との競合部分があるんで、できたら遠慮してくださいと、こういう話でありました。

ところがですね、ある面じゃそういう考え方もあると思いますが、あの道の駅には多くの人が係わらなければ、小さい人だけでやろうとすりゃ、そんだけ関係者が減ってくる。だからテナント方式を考えたと思いますから、これはいろんな業者がおって、いろんな方がおって相乗効果を上げる。いろんな人がないと、少ない少ない人間だけを絞り込んだら、私は逆な面が出てくるし、当初町の考え方とすれば、そういうことを基本においちゃってテナントちゅうものを計画したというふうに思っています。この辺についてですね、なぜそういうことになったのかお聞きをしたいと思います。

○議 長（藤本勝美君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） 今の佐藤議員にお答えさせていただきます。

まず、この道の駅については、当初の出発が、農協、それから観光協会、商工会、そういう団体が本当は主力になって、町がいわばサブちゅうか、いわば支えで出発をしようということで始まったと思っております。残念ながら、農家と一番密接に係わっておる農協が、農協の意向とは違う方向で始まっておるということの中で、脱退をした形になっております。勿論完全ではありません。部分的には、協議会の中にも残って当初はいただいたんですが、協議会の中にも今は残っていただいております。

せん。この道の駅は、考えるときに、農家をやっぱり支援をするというのが、一つの大きな目標の中にあっただけだと思います。だから先ほどから話があったように、確かに高齢化をしておいて品物が集まらない、そういう状況も確かにあります。今回、再度募集をかけたのも、いわば2時とか3時にはもう品物がもうないというような状況があるもんですから、これはやっぱりこういうことではいけない。その中で、今回は、ビニールハウスを造りながら進めていこうと思っております。

それから、高齢者じゃなかなか品物は、少しあるけど、持って来るのになかなか便利が悪い、もう出しにくい、そういうお話も聞いております。だから5人なり10人なり仲間を作って、そこに集めるような形の中で、そこにいわばこちらの方から出荷ちゅうか、集めに行こうということも勿論検討の中に入っております。

それから、今回の人材確保の関係の中で、専門的な指導をいただける職員を配置し、それを回すというか、各地域に出て行って、ビニールハウスを造るなり、いろんな作付けをどういうふうにしたらいいか、それから、どういうものをこれからは是非ともお願いしたいとか、そういうことの指導をする職員も勿論考えておるわけでありまして。今人選中でありまして。それから、今の段階では、1人その各地域に出向いていろんな話をさせていただいている職員もおるわけですけど、とにかくそういうことで、できる範囲のいろんな手立ては、全て町民ちゅうか、農家の方たちに向けて、その中でいろんな作物を出していきたい、そういうふうにも思っております。葉物が大変、確かに珍珠は少ないわけがあります。特に冬場には大変厳しい事情等になろうかと思っております。

それからテナントの問題であります。これは、やっぱり道の駅にプラスになる、いわば相乗効果を上げるそういう商店というか、そういうものを考えたいと思っております。今、少し乾物じゃなくてお菓子を出しております。これだけでも、もう土・日にはやっぱり1万円ずつぐらい売れておりますし、普通の日には5,000円ぐらいと。だからもう当初の考えていた、いわば4万円の2ブース8万円は、十分にもう今の状況の中でもやれておるわけでありまして。だから、よっぽどこれについては慎重に業者選定はやらないといけません。とにかく入ってくれるからいいじゃないかということでは、私は将来的にきっと禍根を残すことになるんじゃないかと思っております。

ここにありますが、まだ1ヵ月少々ですが、大体見込みとして5,000万ぐらいは年間の維持管理費がかかるわけでありまして。そうすると、単純計算でいけば1日に100万ずつ売り上げて365日、まあ360日としたとき3億6,000万であります。最低このくらい金を稼がないと、ここの施設の維持管理ができない。せめてそのトントンにするためにどうすればいいかということ、一生懸命今、勿論、支配人も大変外から入ってきて苦しい立場におられるようですが、私は是非とも頑張ってもらおうということで一生懸命お願いはしておりますが、いろんな話が入ってきておりますが、とにかくこの施設をどうしても赤字にするわけにはいかない、そういう思いでいっぱいあります。どうか皆さん方、そういう面からも、ご支援を、ご協力を賜りたい。よろしくお願いたします。

○議長（藤本勝美君） 1番佐藤左俊君。

○1番（佐藤左俊君） まだまだオープンしたばかりでありますから、そういきなりですね、ぴしゃっ

と理想的にはいかないということは分かっておりますが、先ほど町長の方からも言われましたけれども、早急にですね、農協なり商工会なり、森林組合、観光協会いろんなですね、組織の皆さんと、これ待っちゃったら駄目ですから、ひとつ早急に取り組みをお願いをいたしまして、なんとかですね、道の駅のいい道の駅にさせていただかなければ、これはもう当初から儲からん儲からんと言われちゃった道の駅がですね、思うとおりになるようなことにはするわけにいきませんので、是非お願いをいたしたいというふうに思います。

次に、玖珠町の畜産振興のために誘致した大型肥育農家の優遇措置についてでございます。

町長もご承知のように、玖珠町は昔から畜産の町として全国的に知られております。豊後家畜市場は、九州の中でも高値市場としてしばらくは君臨をしておりました。もう名簿を見たことがあるかわかりませんが、大体A3判ぐらいに毎年出るんですが、それには常に玖珠は12～3番目ぐらいに子牛市場、最近はまだ全然その紙にも載りません。それだけ厳しい状況下にはありますが、しかし、5年に一度開催される全国和牛能力共進会、一昨年でだったですかね、衛藤さんが全国一になりました。こんな素晴らしい牛、私もその当時は行って見ましたけども、それは素晴らしい評価を受けたところがあります。こういう非常に牛としては、おそらく全国に引けをとらない良い牛ができるとは、玖珠は。しかしながら、今日の経済状況の中で、今、肉が本当に売れておりません。それに連動する形で、枝肉相場、これ非常に下がっております。ですから全国の肥育農家の皆さんは、飼料高騰等も重なり、かなり倒産をしております。地元の肥育農家も大変厳しい状況におかれまして、今回、町のありがたいいろんな施策の中でやられておりますが、非常に厳しい今、状況下にあります。

そういう中で、先ほどから私が申し上げておりますように、産地間競争に打ち勝つためには、どうしても地域内の一貫体制が確立が必要なんです。ところが、今まで私とこの町は繁殖が中心でした。肥育がちょっとできましたけど、販売となると全然ゼロでした。ところが、今回、大型肥育農家が今から3年前、福岡の方から来ていただきました。これは大分県も含めて誘致をして、玖珠の方に来ていただきました。現在、名前は申し上げませんが、かなりの今牛を飼っていただいております。しかも、この非常に厳しい経済状況の中で、子牛が厳しい値が下がっただけで、この2つの肥育農家があるお陰でですね、価格はそこそこにあるんですよ、玖珠は。そこ辺のところは調べてみればわかると思いますが、そういう中で、今回、非常にもう、あんまり細かいことは申しませんが、この大型企業が、農家ちいいますか、法人ですが、玖珠町にとってはこの肥育農家のお陰で、今から折角基盤ができ上がったんで、ぜひともですね、町としては、ある面では、農業分野の企業誘致のモデルケースになるんじゃないかというふうに私は思っております。

町長もご存じかと思いますが、大原野を中心に、肉とちいいますか、鶏の肉会社が今、大原野で飼育されておりますし、今回、また天瀬の方付近で増羽ちいいますか、されようとしておりますが、そこはおそらくカット工場等が、当然町としても、ぜひそういう工場が来ていただければありがたい。雇用もかかるわけです。そしたら牛も同じなんです。ですから玖珠町は、やっぱりこういう農業分野の企業誘致というものは、やっぱり今のように自動車関連の工業誘致が非常に厳しい中であれば、視点を

変えたですね、ここ辺のところを町長の方針なり、考え方を考えていただければ、今回のいろんな問題といたしますか、私は副町長の方にもこの点については申し上げた件でございますが、なんとかですね、この問題については、前向きに、ぜひこの議会の中でも私は聞いておきたいし、町としての考え方をお聞きをしたい。

私は言いたいのは、税制問題もありますが、やはり一貫体制というものが視野に置かれてるんじゃないかというふうに私なりに想像しております。この辺の状況も、あえて当たられたのかどうか、そこ辺を含めてご答弁いただきたいと思います。

○議長（藤本勝美君） 太田副町長。

○副町長（太田尚人君） 今の佐藤議員の質問に回答させていただきます。

私も、玖珠町に来る前に農業関係の仕事をしたのは1年だけであります。1年だけありますけども、もうこの玖珠町に12月に着任以来、真っ先に行政課題というふうなことに立ったのが、佐藤町議の一番お詳しい牛の関係の、畜産関係の課題というふうなことに、1月早々から直面をいたしております。その間、佐藤町議さんをはじめ関係の方からいろんな話を聞く中で、玖珠が農業が主体の町であると、農畜産業が元気にならないと玖珠が元気にならないというふうなことで、半年の中で自覚を十分させていただいております。

その中で、先ほど若干肉の話がありましたけども、道の駅の中にも、豊後玖珠牛というふうな話をかねてから町議さんの方にもお聞きをいたしております。そういった中で、この誘致企業、畜産企業の誘致して、本格的に牛の肥育牛の出荷が始まるのが秋口以降というふうな中で、これを機会に、先ほどおっしゃってた牛を、「豊後牛」と、まあこれ県とのネーミングの調整というふうなのが要るんですけども、「豊後牛玖珠」というふうな形になるのが、「豊後玖珠牛」というふうな形になるのか、そういった話もしながら、今までは肥育業者が1つしかなかったと。それも300頭というふうな大規模肥育であるんですけども、300頭をベースに、少し先行して400頭まで増頭はしていただいたというふうな経緯はあるようですけども、なにせ300頭、400頭でブランドというふうなことは、なかなかそのブランドがしにくいと。そこにも、もう1つの畜産誘致企業が入って、本格的に500頭、さらに景気がよければ増頭もしたいというふうな意向もおありのようなので、そういったことを踏まえれば、この秋口から本格的にその牛のブランド化を図ってまいりたいというふうな気持ちで、今いろいろ研究をいたしております。農協とも、その点を今いろんな形で話をさせております。

そういった中で、今回こういった誘致企業に対して、各種の優遇措置の要望というふうなことも当該誘致企業から話がありまして、そこも真剣に税務課で検討させていただいております。私が最初に着任して以来、こういった畜産関係の仕事が玖珠の農業を含めて一番のメインだというような中で、今まで、農業の人は、ただ作って売るだけと、ああ、作るだけというふうなことで、非常に付加価値というふうなことが望めないというふうなことがあったんで、昨年8月に、農商連携法というふうな制度、法律が改正されて、それに併せて誘致企業の補助制度、町の補助制度も通常の企業以外にもそういった農畜産関係の企業進出にも対応できるような形で、農商連携というふうな形で対応できる

ような形で進めてきたところなんですけども、こういった企業については、課税の免除というふうな要望もあるというふうなことなんで、今、そういった企業の意向と、先に進出してる企業とのバランスと、それと玖珠が農畜産業の町であるというふうなことを踏まえて、どういうふうに対応していったらいいかというふうなのを今後検討していきたいと思っております。

ですから、先ほどの町議さんの質問の中に、私の方から3月にいろいろ提案させていただいた農・商・工の連携と、ただ農業生産物を生産するだけじゃ駄目だと。先ほど加工施設を造ったらどうだろうかというふうなご提案もあって、我々執行部の考えと町議さんの議会の考え方というのが、かなりもう一致してきてると。そういった中で農協を踏まえて、農協も含めて協力関係を築く中で、まさにこの秋からの出荷に合わせた、販売も視野に入れたその施策をいろいろ研究してまいりたいというふうに思っております。

以上であります。

○議長（藤本勝美君） 1番佐藤左俊君。

○1番（佐藤左俊君） 細かい数字とかいろんなことは申しません。要は、折角わざわざ来てもらった企業が出て行くようなですね、また、そういうことをしたら、これは今後ですね、いろんな形で難しい問題が出ますんで、ひとつここは町の姿勢をやっぱりしっかりとつくって、話を進めていただきたいというふうに思います。

最後の質問になりますが、先ほどから工藤議員もかかり町長にいろいろと質問されておまして、重複は避けたいと思っておりますが、とにかくですね、先ほど町長からいろいろ答弁がありよりましたので、わざわざそれに対していろいろ言うつもりございません。ああいうテレビの番組ちゅうのは、どういうふうに、その報道される内容によっては演出ちゅうか形を、妙な、意図と違う方向に仕向けられるというか、これはまあ民放放送、これは報道の自由の中であるんで、我々どうじゃこうじゃちゅうことは難しいと思いますが、ただ、時期もあつたんじゃないかと思えます。町長がインタビューで受けた時期と今の時期とは、ちょっとどげなふうな関係があるかちょっと分かりませんが、どうもあの町長の発言からすると、非常に町長としては苦しいまた答弁をされていたような感がいたしております。

もう特に深くは言いませんが、とにかく、先ほど町長が盛んに1万8,000人の代表責任者であるということを先ほど来、町長盛んに強調しておられました。そうしますと、こういうような例を出すと大変失礼かと思うんですが、九重の町長さんが、玖珠町との合併問題で町民に約束しちよつたことを守れないということから、当時、後藤町長も地方振興局長におられたんで、もう当然お分かりかと思うんですが、調整されてると思えますが、町長を辞して住民に問うて、合併しないということになったと思えます。それだけ町長というのは、やっぱ職責ちゅうのは大変私は重いものが、我々議員は町民の皆さんにいろんなお約束をしましても、予算権持ちませんから、道路ここ一本造りますとか、ここに橋架けますなんてできません。しかし、町長はできます。予算は握っておりますし、議会の同意さえあれば何でもできますが、ここ辺がですね、私ども議会と、議員と違うところありますし、町長の

これはもう考え方だと思いますから、我々がどうということとは言えませんが、やはり今後町長が町長としてやっていく場合、やっぱり言葉とか発言とかいうのは、これは町長が一言言うたらですね、全てが、町長より上がおられませんので、ここ辺のとは十分わきまえて発言していただかないと、大変な責任問題になると思いますし、ここ辺のとは大変耳が痛いかと思えますけど、町長、そこ辺のとは今後しっかりとわきまえていただきたい。その辺について、もし町長の見解があればお聞かせをいただきます。

○議 長（藤本勝美君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） お答えします。

大変貴重なご意見賜りました。これからのいろんな言動については、確かに慎重に対応していかなければいけないなど、そういう思いはしているところであります。是非とも、真意を是非とも汲み取っていただいてよろしくお願ひしたいと思えます。

○1 番（佐藤左俊君） 以上で一般質問を終わります。ご協力ありがとうございました。

○議 長（藤本勝美君） 1番佐藤左俊議員の質問を終わります。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

なお、明日18日は議案考察のため休会といたしたいと思えますが、これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議 長（藤本勝美君） 異議なしと認めます。

よって、明日18日は議案考察のため休会、19日は閉会日となります。

本日はこれにて散会いたします。

ご協力ありがとうございました。

午前11時37分 散会

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

平成21年6月17日

玖 珠 町 議 会 議 長

署 名 議 員

署 名 議 員